

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	乳癌・甲状腺癌発症に關与する遺伝子多型の解明
	研究目的	乳がんには、女性ホルモンの刺激を受け取るタンパク質(受容体)(エストロゲン受容体)を持っているものがあり、このような乳がんには女性ホルモンの機能を抑える薬が有効とされています。ですが、このエストロゲン受容体の働き方には、色々な遺伝子が関わっていて、人それぞれ、その遺伝子の個性(多型、と言います)が違うことから、薬の効果にも個人差があるとされています。今回の研究では、エストロゲン受容体が陽性の乳がん患者さんで、NRF2 遺伝子、CYP2A6 遺伝子、HO-1 遺伝子という3つの遺伝子の多型を調べて、薬の効果や臨床経過との関係を調べます。
	研究対象者	2006年1月1日～2012年3月31日までに乳がんの手術を受けた患者さん
	研究期間	西暦 2019年10月2日～西暦 2021年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	宮城 洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	乳腺内分泌外科、臨床研究所がん分子病態学部
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	横浜市立大学大学院医学研究科・がん総合医科学 岡野泰子 理化学研究所・予防医療迅速診断システム開発ユニット 白井健悟